



三菱電機パッケージエアコン

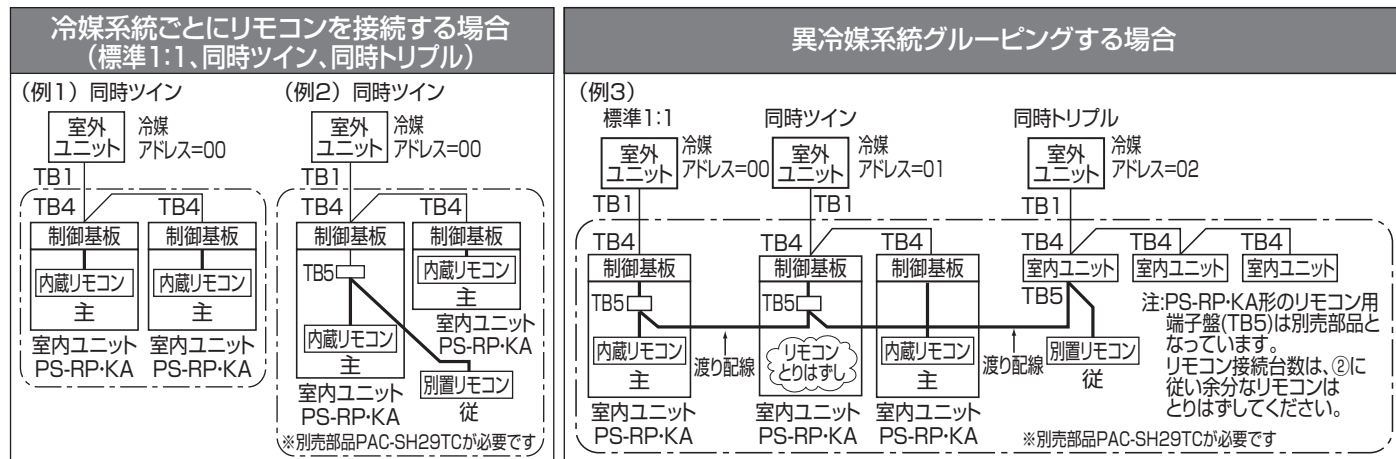
# システム コントロール 工事 説明書

販売店・工事店様用

## 冷媒R32対応

### PS-RP50~160KA20

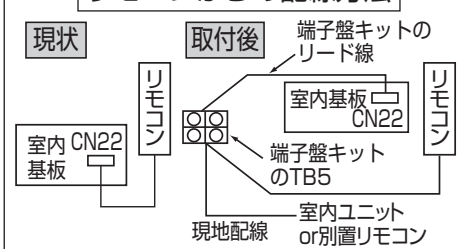
**■伝送線配線** リモコンの配線はシステム構成によって異なりますので、以下の例に従って行ってください。



※冷媒アドレスの設定は、室外ユニットのディップスイッチにて行います。(詳細は室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください。)

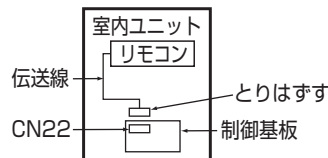
記号	名称
TB1	端子盤(室外:電源及び内外接続線)
TB4	端子盤(室内:内外接続線)
TB5	端子盤(リモコン伝送線)

#### リモコンからの配線方法



#### リモコンのとりはずし方法

●リモコンのとりはずしはリモコン線をとりはずすだけでも可能です。伝送線のコネクター(CN22)を制御基板よりはずしてください。



#### ① 冷媒系統ごとにリモコンを接続する場合

- 床置形は室内ユニットにリモコンが内蔵してあるため、別置リモコンを追加する場合を除き、リモコンの配線作業は不要です。
- 同時マルチタイプの場合は、すべての内蔵リモコンをそのままの設定で使用できます(例1)。
- 別置リモコンを使用する場合は、1台のみ追加取り付けが可能です(例2)。別売部品の「リモコン端子盤キット」PAC-SH29TCを室内ユニットの制御基板に接続し、端子盤のTB5にリモコン線を接続してください(極性はありません)。リモコンを追加する場合は、必ずリモコンの主従設定を行ってください。同時マルチタイプでリモコンを追加する場合は、いずれか1台の室内ユニットにPAC-SH29TCを接続してください。

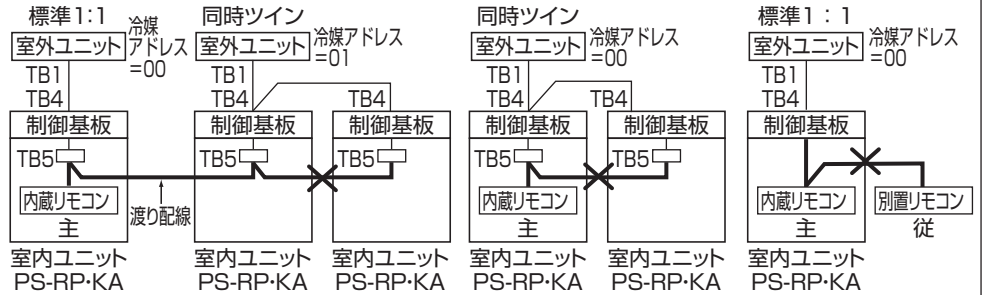
#### ② 異冷媒系統でグルーピングする場合

- リモコン配線によりグルーピングを行います。別売部品の「リモコン端子盤キット」PAC-SH29TCを室内ユニットの制御基板に接続し、グルーピングする各冷媒系統の任意の室内ユニット1台とリモコン線にて渡り配線してください。
  - 同一グループ内にて異なる機種種の室内ユニットが混在する場合、必ず機能(風速、ベーン、ルーバー等)の多い室内ユニットが接続されている室外ユニットを親機(冷媒アドレス=00)としてください。
  - この場合、( ) で囲まれた全室内ユニットを1グループとして扱います。
  - 同一グループ内では、リモコン線による渡り配線をしている室内ユニットに合計2台までリモコンを接続できます。該当するリモコンが3台以上となる場合は、余分な内蔵リモコンをとりはずしてください。
  - リモコン線により渡り配線をしている室内ユニットに接続されている2台のリモコンは、必ず主従設定を行ってください。
  - 室内ユニット内蔵のリモコン又はMAスマートリモコンはシステム内に必ず1つ以上接続させてください。(すべてのワイヤードリモコンをとりはずすことは禁止)
  - MAリモコンでは最大16冷媒系統を1グループとして制御可能です。
  - MAスマートリモコンにて、パワーシェア運転・スマートデフロスト運転を採用する場合は、最大4冷媒までです。機能の詳細は室内ユニット取扱説明書をご覧ください。
- ※PS-RP-KA5形より前の機種種とグルーピングする場合は、室内基板のディップスイッチSW5-8をOFFに設定してください。

※PS-RP-KA形を同時マルチタイプで使用する場合、オン/オフタイマー・消し忘れ防止タイマー・週間スケジュール・室外サイレントモード設定・設定温度自動復帰・省エネ運転スケジュール・パワーシェア運転については、代表のリモコン1台から設定してください。

## 確認

- 同一冷媒系統の室内ユニットTB5への渡り配線は禁止です。渡り配線した場合、システムが正常に動作しません。
- リモコン同士での渡り配線は禁止です。リモコンの端子盤には、配線は1本しか接続できません。



■リモコン線の総延長は500mです。ただし、リモコンを2台接続(例2)、(例3)でご使用の場合は200m以下にしてください。

●0.3mm<sup>2</sup>の電線又は2芯ケーブルを使用してください。(現地手配) ●誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。 ●リモコン線はアース(建物の鉄骨部分又は金属等)及び電源配線・内外接続線・他系統のリモコン線が直接接触しないようにできるだけ離してください。

■MAスムーズリモコンを使用する場合は、室内ユニット制御基板のディップスイッチSW5-8をOFFにしてください。

※ディップスイッチSW5-8をOFFにすると、形名・製造No.収集機能、スマートデフロスト、パワーシェア運転は使用できなくなります。

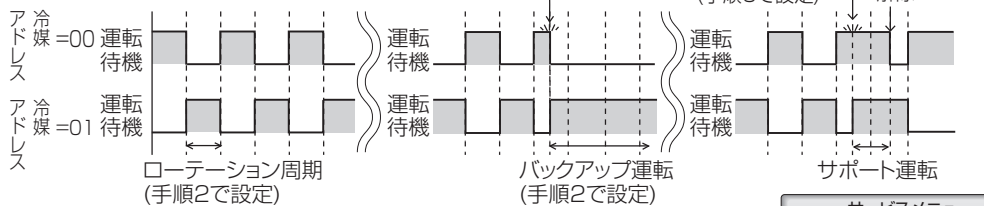
## ローテーション設定

●MAスマートリモコンにより2冷媒系統の標準1:1システムに限り、ローテーション運転やバックアップ運転の設定が可能です。 ●ローテーション運転は、各冷媒系統を交互運転させ、運転時間の均一化を図ることができます。 ●バックアップ運転は、1冷媒系統が異常停止した場合でも待機中の冷媒系統が起動し、空調を継続することができます。 ●サポート運転(パワフルツイン冷房)は、1冷媒系統では能力が不足する場合に、自動的に待機中の冷媒系統が起動し、補助運転を行います。

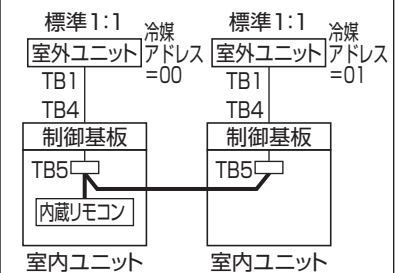
<ローテーション運転>

<バックアップ運転>

<サポート運転>



## ローテーション設定を行う場合



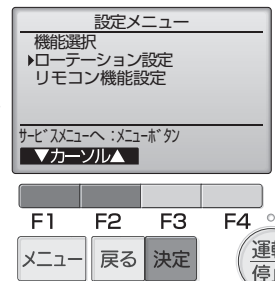
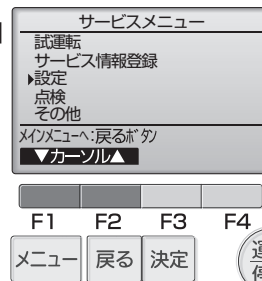
※リモコンを2台接続する場合は、リモコンの主従設定を行ってください。  
 ※床置形同士で組み合わせる場合は、片方のリモコンをとりはずすか、リモコンの主従設定を行ってください。  
 ※設定は主リモコンからのみ可能です。  
 ※別売部品PAC-SH29TCが必要です。

## ① 設定手順

【手順1】リモコンを『ローテーション設定』に切り換えます。

- サービスメニュー画面で「設定」を選択します。
- 設定メニュー画面で『ローテーション設定』を選択し、決定 ボタンを押します。

【手順1】



【手順2】ローテーション運転を設定します。

- F1 ボタンで「ローテーション」を選択します。
- F2、F3 ボタンでローテーション周期又はバックアップを選択します。  
 選択項目：無し、1日、3日、5日、7日、14日、28日、バックアップのみ  
 ※1日～28日を選択した場合は、バックアップ機能も有効となります。  
 ※「バックアップのみ」を選択した場合は、冷媒アドレス=00の系統がメインとして運転し、冷媒アドレス=01の系統がバックアップとして待機状態となり、ローテーション運転されません。

【手順3】サポート運転を設定します。

- F1 ボタンで「温度差サポート」を選択します。
- F2、F3 ボタンでサポート運転が動作する「吸込み温度と設定温度の差」を選択します。  
 ※サポート運転は冷房設定時のみ有効です。(暖房、ドライ、自動設定時は動作しません。)  
 ※サポート運転はローテーション設定で「無し」以外に設定した場合に有効になります。

【手順4】設定更新

- 決定 ボタンを押し、設定を更新します。

## ② リセット方法

- F4 ボタンでローテーション運転時間がリセットされ、冷媒アドレス=00の系統からの運転となります。  
 ※冷媒アドレス=01の系統がバックアップ運転中の場合は、冷媒アドレス=00が運転に戻ります。

【手順2】



【手順3】

